

# 会員の ひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

## 英国の蹉跌を 反面教師とすべし

札幌市医師会  
札幌新川整形外科

むらかみ としや  
村上 俊也

「スナクは給料を上げろ。われわれは10%を要求する」ロンドンを中心とする交通、医療、教師、公務員らによる賃上げストライキは昨年未から、止むことがない。

今から20年以上前、英国では、長きに渡る医療費抑制策の結果、130万人を超える入院待機者に象徴される医療の荒廃を招いた。

当時、救命救急部門における入院待機が3時間32分。超音波検査も平均待機が8週間。入院の待機者数のピークは130万人を超え、中には1年半以上待たされている患者もいた（近藤克則氏、老年医学の展望より）。

「医師は不幸である」の冒頭で始まる医学論文 Why are doctors so unhappy? There are probably many causes, some of them deep. (BMJ 2001; 322) によれば医師には研修医以外にも長時間労働が蔓延し、医師1万人、看護師2万人が不足。GP（家庭医）の平均診療時間は9.36分と米国の20分の半分以下。「燃え尽き症候群」による自殺率は他職種より高く、医師で2倍、看護師で4倍とある。その結果、優秀な医師は海外へ脱出し、主な働き手はインド、バングラデシュ、アフリカなどの旧植民地出身の外国人に頼らざるを得ないありさまで、医療レベルは「第三世界並み」といわれた。

時のブレア政権は2000年から5年間で実質医療費を1.5倍増やすと明言し、NHS予算を330億ポンド（約6.6兆円）から674億ポンド（約13.5兆円）へと倍増した。その結果、NHS（国営医療サービス）に民間医療費を加えた総医療費は1999年から2004年の5年間で47%増加し、GDP比で1997年の6.6%から2004年には8.7%になった。ちなみにNHSの医療

費は年により異なるが概ね税金85%、保険料13%、自己負担2%程度で構成され、国民皆保険という点で我が国に似る。しかし、英国は今も病んでいる。コロナ旋風が吹き荒れた2021年末、イングランドの病院の待機患者数は600万人に達した。人口約5,600万人を弁えると、これは人口の1割以上に相当し、日本では考えられない状況である。ウィズコロナを宣言したジョンソン首相だが、コロナ最前線で戦う医療者には危険手当はなく、職務中、感染しても日本の「医療従事者支援制度」などもない。労災による休業は単なる「病欠」扱いと差がないという医療施策は批判にさらされた。

今年1月、スナク政権は年頭演説で5つの重要施策を発表した。その一つがNHSの待機リストの削減である。スナク首相は1月11日、下院の首相質問で、救急車のストを「恐ろしい」と非難し、主要な公共部門では、仮にスト中でも最低限のサービス実施を義務付ける反スト法案の重要性を強調した。これに対し、最大野党労働党は「スト参加者を解雇できる法案だ」と非難し、早期成立の見通しは立っていない。過去数十年で最大規模といわれる公共部門のストは、インフレ率が40年ぶりに10%を突破し、国民生活が圧迫される中で拡大した。政府は昨年、独立機関の助言に従い医療従事者に4.75%の賃上げを認めたが、組合側は不十分と反発し、2月1日にはこれまでで最高の50万人の賃上げストライキが挙行されたが、現時点でこの賃金闘争が完結したという報道はない。

この英国の医療費の対GDP比率は直近では10.2%と極端に低いわけではない。一方の日本は11.0%あるが、2018年のOECD加盟国中6位で米、独、仏よりも低く、一人当たりの医療費に換算すれば、さらにカナダ、ベルギー、デンマークよりも低くなると思われる。

衝撃的な論文から20年、職員の給与も上げられない低医療費政策が続く日本でも、同じように「医師は不幸である」と実感して久しい。政府は重複受診、重複処方をなくし、医療費支出を抑制するためにフリーアクセスを制限しようとしており、そのモデルとして英国型の登録医制度、つまり国民皆保険併用のGP制度を意識しているようである。政府の掲げる、かかりつけ医機能の整備は、医師の自由裁量を制限するだろう。我々は今再び、英国の医療事情の負の側面、一度損なわれた医療は20年を経ても回復しないという現状を具に検証する必要がある。